

2019年度 事業報告書

一般社団法人日本分析機器工業会

2019年度 事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

2019年4月1日から2020年3月31日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり報告致します。

I. 会員の異動

会員の異動は別紙1のとおり。2019年度における入会は正会員2社および賛助会員2社、退会は正会員7社および賛助会員1社で、会員総数は2019年度末現在で170社となった。

2018年度末現在 会員数 171社（正会員105社、賛助会員66社）

2019年度末現在 会員数 170社（正会員101社、賛助会員69社）

（注：年度末の会員数は年度末での退会会員数を含む）

II. 総会、理事会等

1. 総会

一般社団法人日本分析機器工業会2019年度定時総会を次のとおり開催した。

- (1) 日 時：2019年5月23日（木）15時00分～15時45分
- (2) 場 所：霞山会館 牡丹の間
- (3) 出席者：正会員105社中、出席75社（うち委任状提出・書面議決権行使 計51社）
- (4) 承認された議案は次のとおり。

第1号議案 平成30年度事業報告及び収支決算書案の承認に関する件

第2号議案 任期満了に伴う役員の変更に関する件

- (5) 報告案件

2019年度事業計画及び収支予算に関する件

2. 理事会（役員名簿：別紙2）

(1) 開催状況

第1回	2019年4月18日（木）	11：30～12：30
第2回	2019年5月23日（木）	14：00～14：50
臨時理事会	2019年5月23日（木）	2019年度定時総会後開催
第3回	2019年7月12日（金）	12：00～14：00
第4回	2019年9月4日（水）	8：15～9：00
第5回	2019年10月18日（金）	12：00～14：00
第6回	2019年11月22日（金）	16：00～17：00
第7回	2020年1月15日（水）	15：30～16：30
第8回	2020年3月13日（金）	（書面審議開催）

(2) 主な決議事項

(第1回理事会)

- ①平成30年度事業報告書(案)および収支決算書(案)承認の件
- ②2019年度定時総会議案書(案)承認の件
- ③賛助会員入会の件
- ④企画戦略会議委員選任の件
- ⑤知的財産委員会副委員長選任の件

(第2回理事会)

- ①技術委員会副委員長選任の件
- ②工業会事務局長任免の承認の件

(5月臨時理事会)

- ①議長選出の件
- ②会長、副会長及び専務理事選定の件
- ③相談役選任の件

(第3回理事会)

- ①賛助会員入会の件
- ②企画戦略会議委員選任の件
- ③2019年度JASIS開催に関する覚書締結の件
- ④60周年記念事業実行委員会の設置について

(第4回理事会)

- ①正会員入会の件
- ②共催名義使用依頼(新規)の件

(第5回理事会)

- ①展示会委員会委員長および副委員長選任の件
- ②産業標準化推進事業受託に関する委員会運営規程等の制定の件

(第6回理事会)

- ①協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画策定の件

(第7回理事会)

- ①2020年度工業会基本方針及び事業計画の重点について
- ②企画戦略会議委員選任の件
- ③協賛名義使用依頼(新規)の件

(第8回理事会・書面開催)

- ①2020年度事業計画及び収支予算案について
- ②企画戦略会議委員選任について
- ③常設委員会委員長および副委員長の選任について

- ④設立 60 周年記念事業における優秀従業員表彰および感謝状贈呈対象者について

3. 代表者懇談会

2020 年 1 月 15 日(水) 16 時 40 分～17 時 20 分、パレスホテル東京で会員会社 33 社の出席を得て代表者懇談会を開催した。中本会長挨拶の後、2019 年度事業中間報告を松浦専務理事、山下企画戦略会議議長から総括説明した。

代表者懇談会に引き続き、約 240 名の参加者を得て新年懇親会を開催した。

III. 2019 年度において行った事業の概要

1. 分析機器に関する調査および研究

- ①分析機器海外技術動向、環境関連技術動向調査（技術委員会、環境委員会）
- ②主要労働条件に関する調査・研究（労務委員会）
- ③知的財産権の管理推進に関する調査研究（知的財産委員会）
- ④分析機器の海外市場動向調査（国際委員会）
- ⑤分析機器工業に関する調査（統計委員会、事務局）
 - ・分析機器工業の経営実態調査（事務局、正・賛助会員悉皆調査、年 1 回）
 - ・分析機器の生産・輸出入動向調査（統計委員会・事務局、正・賛助会員対象、四半期）
 - ・受注動向調査（統計委員会、事務局）

2. 分析機器に関する情報収集および提供

- ①分析機器の手引きの発行および頒布（技術委員会）
- ②環境分析関連資料の情報収集および会員への情報提供（環境委員会）
- ③分析機器に係る欧州規制等関連情報（RoHS、REACH、WEEE、ErP 等）の収集および会員への情報提供(環境委員会)
- ④人事・労務管理上の課題に関する情報交換会の実施（労務委員会）
- ⑤知的財産権の管理推進に関する会員企業相互の情報交換会の開催（知的財産委員会）
- ⑥輸出管理に関する情報収集および会員への情報提供（国際委員会）
- ⑦海外規制、国内薬機法の動向に関する情報収集および会員への発信（医療機器委員会）
- ⑧会員向け会報誌 JAIMA Season 発行（広報委員会）
- ⑨JAIMA Web サイトによる各種行政情報等の会員への情報発信（広報委員会、事務局）

3. 分析機器に関する規格、基準の策定および標準化の推進

- ①JIS K 0115 吸光光度分析通則の改正原案作成（環境委員会）
- ②経済産業省平成 31 年度産業標準化推進事業委託（戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準開発活動）による国際標準化活動実施（環境委員会）
- ③公益社団法人日本医師会等実施の外部精度管理調査事業への支援（医療機器委員会）
- ④体外診断用医療機器の安全に関する IEC 規格の普及および JIS 化（医療機器委員会）

4. 分析機器に関する展示会の開催等

- ①JASIS 2019 を一般社団法人日本科学機器協会（JSIA）と共同開催（展示会委員会）
- ②新技術説明会、JASIS コンファレンスの開催（展示会委員会、技術委員会）
- ③JASIS WebExpo 2019 開催、JASIS WebExpo 2020-2021 開催準備
- ④「JASIS 2020」（第9回）の開催準備（展示会委員会）

5. 分析機器に関する講演会等の開催

- ①環境規制・標準化関連講演会の開催（環境委員会）
- ②労務・人事担当者に対するセミナー開催（労務委員会）
- ③知財管理関連セミナー開催（知的財産委員会）
- ④医療機器業公正競争規約インストラクター養成研修の実施（医療機器委員会）
- ⑤「ライフサイエンス・イノベーションセミナー」開催（ライフサイエンス市場研究会、展示会委員会、医療機器委員会）

6. 分析機器に関する内外関係機関との交流および協力

(1) 政府関係機関への協力

- ①薬機法、安全保障貿易管理令、環境規制関係法令、計量法等分析機器に関連する法令の施行および関連する行政施策への協力並びに当該改正等の当業界への影響調査、関連情報の会員への情報提供（各委員会、事務局）
- ②工業会作成統計等の経済産業省への提供、Webによる一般への提供（統計委員会、事務局）
- ③特許庁審査官との情報交換（知的財産委員会）
- ④経済産業省と協力し「安全保障貿易管理説明会」開催（国際委員会）
- ⑤医療機器業公正取引協議会日本分析機器工業会支部を通じ医療機器の公正取引に関する指導、相談、普及活動実施（医療機器委員会）
- ⑥行政に係る調査、情報発信協力、中小企業関連税制に係る証明書の発行等行政協力（事務局）

(2) 海外機関との交流および協力

- ①Pittcon、ETC（米国創薬ベンチャー企業のコンソーシアム）との連携（企画戦略会議、ライフサイエンス市場研究会国際委員会、展示会委員会、技術委員会）
- ②JASIS 併催の国際コンファレンスの企画運営（技術委員会、国際委員会）
- ③ALDA 等海外関連諸団体との交流活動の推進と連携強化（国際委員会）
- ④ALDA、Eurom II 等と受注統計データの交換、会員への提供（統計委員会）
- ⑤GDA（海外 IVD 工業会とのアライアンス）への参加、交流（医療機器委員会）

(3) その他機関との交流

- ①一般社団法人医療機器産業連合会の活動に参画し、工業会の意見の行政への反映を図るほか、薬機法や欧州指令等に関し会員への情報提供、調査等の実施（医療機器委員会）
- ②体外診断用医療機器に関する一般社団法人日本臨床検査薬協会との連携による「IVD-MD の地位向上 WG」活動の実施（企画戦略会議、医療機器委員会）

7. その他本会の目的を達成するために必要な事業

- ①高校生向けサマーサイエンススクールの開催（技術委員会）
- ②大学院における素材機器分析評価講座開催（技術委員会）
- ③JASIS 関連情報、セミナー情報、社会性・公共性のある JAIMA 活動状況のタイムリーな発信
(広報委員会)
- ④当工業会に関係する団体主催展示会等への後援・協賛名義等の使用承認（事務局）
- ⑤分析機器に関する国内および輸出向け団体 PL 保険制度の実施（事務局）
- ⑥顕彰等に関する事業（事務局）
 - ・国、公共機関、団体等が行う表彰制度等の会員への紹介等
 - ・公益社団法人日本分析化学会先端分析技術 JAIMA 機器開発賞への協力
- ⑦工業会の紹介冊子『工業会案内』（和英）および『入会のご案内』の作成（広報委員会、事務局）

IV. 委員会活動

1. 企画戦略会議

(1) 企画戦略会議開催

- ①2019 年度に企画戦略会議を 8 回開催し、理事会に上程する議題の審議を行った。
また、企画戦略会議委員が分担して各常設委員会に参加し、各委員会活動のモニタリングを行い、複数の委員会間で調整が必要な事項を企画戦略会議で審議し、調整を行った。
- ②正副委員長会議を開催し、各委員会が概ね当初計画どおりに活動していることを確認するとともに、各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。
 - ・平成 30 年度事業報告を実施（第 1 回理事会）
 - ・2019 年度事業中間報告を実施（第 6 回理事会）
 - ・2019 年度事業中間報告を実施（2020.1.15 開催の代表者懇談会）
 - ・第 1 回正副委員長会議開催 各委員会事業計画/予算説明・意見交換実施（2019.10.8 開催）
 - ・第 2 回正副委員長会議開催 各委員会事業中間報告・意見交換実施（2020.2.17 開催）
- ③常設委員会から提出された 2020 年度事業計画（案）および収支予算（案）について調整し、第 8 回理事会（書面審議）に上程した。

(2) 展示会企画戦略小委員会開催

展示事業を取り巻く課題への継続的な対応、新しい企画の評価（オープンソリューションフォーラム、JASIS WebExpo、関西 JASIS など）および検討、JASIS の向かうべき将来像の横断的な検討を実施する場として活動。「10 年後の JASIS」を取りまとめた後、2019.11.11 に JASIS 2019 の振り返りを行い、今後の活動についてのディスカッションを実施した。

(3) ライフサイエンス市場研究会開催

JAIMA が ICT を駆使して創薬や機能性食品開発等のライフサイエンス市場で分析機器産業の新たなポジションを築くための具体的な成功事例の創出や、バイオ医薬品開発の急速な新展開に対応し国内/海外製薬企業とのパイプラインを強化するためのプラットフォーム構築を目的に、会員企業の将来を担う若い世代の柔軟な発想、情報収集力等のポテンシャルを活用した研究会活動を実施した。

①ライフサイエンス分野でのオープンイノベーション創出のための技術交流実施

湘南 iPark にて、LS 市場研究会と Axcelead 社との間で「CELL」、「MS、Protein、PCR」、「Automation、IT など」の 3 つテーマで技術者を集めたディスカッションを実施。

②JAIMA と外部関連団体等とのネットワーキングのための外部活動

ライフサイエンス分野の関連団体とのコラボレーションの機会を創出。

- ・ライフサイエンス イノベーションセミナーを 2 回実施。

「硫黄代謝経路の新発見が先端分析計測の新市場を創出」(2019.07.03 開催、聴講者 100 名)

「データサイエンスにより加速される医療・福祉・ライフサイエンスの未来」

(2020.2.6 開催、聴講者 75 名、医療機器委員会と連携)

- ・JASIS 2019 において JAIMA・Pittcon・ETC (米国 Enabling Technologies Consortium) Joint Session を開催。
- ・Pittcon 幹部メンバーと LS 市場研究会メンバーで Leadership 会議を開催。 JASIS 2020 LSZ のテーマや JAIMA・ETC Joint Program に関するミーティング実施。(2019.09.05)
- ・シカゴにて ETC との Leadership Meeting を開催し、Pittcon でのジョイントセミナーおよび今後のコラボレーションに関して打合せを実施。年に 2 回開催される ETC 会合にあわせて会議開催を ETC のボードメンバーで検討してもらう事となった。(2019.10.02)

③Pittcon 2020 にて JAIMA シンポジウム実施

Pittcon 2020 に参加し、ETC との合同シンポジウムおよびワークショップを開催。

(2020.3.3 開催)

<合同シンポジウム>

「Advanced Drug Discovery for Biopharma & Biotherapeutics : Technologies for Structural Analysis & Spectroscopic Cell Imaging」(顕微ラマン分光分析、最新の質量分析、構造解析と生物学、ヌクレオチドベースの治療薬主流となっているバイオ医薬・バイオ治療薬の開発に必須の分析手法等を紹介)

<ワークショップ>

「Analytical Solutions for Advanced Drug Discovery and Pharmaceutical Practice: Innovation Between Analytical Science and Pharmaceutical Requirements」

(JAIMA 会員および ETC 参加企業から製薬・創薬向けの最新の分析ソリューションを紹介)

(4) 国内外の諸団体との連携強化

国内は、一般社団法人日本臨床検査薬協会(JACRI)と IVD-MD 会議を 5 回および IVD-MD 地位向上のため WG を 2 回開催した。

また、JAIMA、JACRI 共催でメディア向けセミナーを企画、実施した。

海外の諸団体との連携強化については、Pittcon Committee との定期ミーティングを実施したほか、現地技術セミナー開催、PR ブース設置、JASIS アジアテクニカルフォーラム等への講師招へい、当該団体訪問などにより、インドネシア、マレーシア、タイ、インド等のアジア諸国の団体と交流を行い、関係強化を図った。

(5) 「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」策定

経済産業省からの要請に対応し、「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」を策定し、JAIMA Web サイトに掲載。(2020.1.7 掲載)

2. 技術委員会

分析装置及び分析手法に関する情報の収集・展開・普及、将来展望に関する調査などを通じて、工業会全体及び各会員企業の技術力向上、事業拡大に貢献することを目的として、(1) JASIS コンファレンスの企画運営、(2) グローバル交流、(3) 分析機器の手引き改訂、(4) 次世代人材育成支援を実施した。

(1) JASIS コンファレンス等の企画運営

JASIS 2019 における JASIS コンファレンス等の企画、運営を実施。

○JASIS コンファレンス実施結果

- ・コンファレンス：33 団体 57 セッション、聴講者数 4,803 名(昨年 4,219 名) 《584 名増》
- ・新技術説明会：テーマ 329 件、聴講者数 15,844 名(昨年 16,017 名)

○関連業務

- ・日本環境化学会と共催した「マイクロプラスチックの計測と環境影響」は 330 人の聴講者を集め大盛況であった。

(2) グローバル交流事業実施

○RSC-TIC インターナショナルコンファレンスを実施。

- ・トラベル грант (一律 5 万円) にて海外より 10 名の研究者を招致。さらに、今年度から国内留学生を対象としたトラベル грант (一律 2 万円) を開始し、9 名を選定した。海外トラベル грант には 35 名の応募があり、その中から 10 名を厳選したが、高いレベルの研究者が参加されるようになった。トラベル грант から 3 名のポスター賞受賞。ポスター発表者のうち 37% が国外研究者となり一層の国際化が進んだ。

○国際委員会と連携し、タイ・TISTR との共催で JAIMA シンポジウムをタイ・バンコクにおいて開催。(2019.11.7)

○大韓化学会との合同セミナー (2019.10.17@Korea Changwon)

○東大ーベトナム国家大学・ヤンゴン工科大学ジョイントシンポジウムへの共催 (2019.9.3)

場所：幕張メッセ国際ホール 201 号室

参加者：75 名以上（中本 JAIMA 会長、北森東大教授、Nguyen Van Noi ベトナム国家大学
ハノイ科学大学長、Mya Mya Oo ヤンゴン工科大前学長 他）

その他：JAIMA 協賛企業 7 社の発表実施。翌日の 9 月 4 日にベトナム・ミャンマーの VIP
向けの JASIS 展示会ツアーを開催した。

7 社のブースを訪問し、各社 10 分の説明を行った。

(3) 分析機器の手引発行事業実施

分析機器の手引き第 1 章の改定完了。JASIS 展にて DVD 版を配付した。

(製本版は 3,500 円にて販売。)

(4) 次世代人材育成支援実施

①JAIMA サマーサイエンススクール実施

・日時：2019 年 7 月 26 日（金） 13:00～17:00

・場所：日本科学未来館

・共催：国際化学オリンピック日本委員会

・参加生徒人数：48 名

・協力企業数：15 社（臨床検査薬協会の会員企業 2 社含む）

・使用装置数：19 機器

・その他：*実習前に東洋大学佐藤成美先生より、参加生徒向けに「おいしさをはかる」を
テーマとするミニ講演を実施。

*昨年に続き、サマーサイエンススクール開催会場の一角に、日本科学未来館の
一般来場者向け実験体験コーナーを開設。(参加者数：約 60 名)

②『早稲田大学講座 素材機器分析評価』実施

・設置機関：早稲田大学 大学院創造理工学研究科

・期間：2019 年 4 月 11 日～7 月 25 日 毎週木曜日 第 5 時限

・場所：早稲田大学 理工キャンパス 54 号館 304 教室

・履修者：80 名 授業回数 15 回 講師派遣企業数：13 社

・本授業は修士課程の「専修コース」という制度の授業、研究部門を超えて履修可能で、
2 単位付与。

③国際化学オリンピック日本委員会実行委員会主催イベントへの共催

・タイトル：京都で感じる化学の風～明日の化学を担う皆さんへ～（高校生対象）

・日時：10 月 19 日（土）午後 2 時～5 時

・共催：日本化学会、京都大学大学院理学研究科、京都大学大学院工学研究科、JAIMA

・実験演示：島津製作所、日本電子の 2 社実施

・展示ブース：堀場製作所、光明理化学の 2 社実施

3. 環境委員会

環境分野等における分析技術・機器に関する規格・標準化の推進及び規制への対応を行うことを目的として、(1)規格・標準化事業の推進、(2)会員製品の環境法規適合のための活動、(3)会員への環境規制関連の情報提供、その他の事業を実施した。

(1) 規格・標準化事業の推進

①JIS K 0115 吸光光度分析通則の改正原案を作成。

②外部団体の標準化委員会への委員派遣

<JIS 関連>

- ・工場排水試験方法 (JISK0102) の体系整備検討委員会
- ・新規：繊維製品のペプチド分析法 JIS (繊維評価技術協議会)

<ISO/IEC 関連>

- ・新規：ISO/TC298 WG4 Rare Earth Testing and Analysis

③経済産業省「平成31年度産業標準化推進事業委託（戦略的国際標準化加速事業：政府戦略分野に係る国際標準開発活動）」を受託し、標準化検討委員会および技術小委員会を設置して事業実施。

<テーマ>熱分解装置/加熱脱着装置及びガスクロマトグラフ (Py/TD-GC) を使用した
ポリマー中フタル酸エステル類の一斉分析法に関する国際標準化

④経済産業省「令和2年度に実施すべき標準化テーマ等に関する調査」へのテーマ提案

<テーマ>計測分析データ共通フォーマットおよび共通位置合わせ技術に関する JIS 開発

⑤経済産業省産業標準化功労者表彰申請 (JAIMA 事務局小森部長、産業標準化功労者表彰受賞)

(2) 会員製品の環境法規適合のための情報発信等

①医療・計測・分析・制御機器 (カテゴリ8・9) 関連工業会連絡会活動

- ・医療・計測・分析・制御機器関連工業会連絡会活動に参加
- ・欧州 RoHS 指令の除外規定延長について適用除外タスクフォースの活動を継続

②製品含有化学物質規制ロビー活動実施 (JAIMA エンドース案件)

- ・RoHS 指令適用除外 附属書3 カテゴリ8 IVD、産業用カテゴリ9 早期申請に関する EU 委員会への確認文書案 (2019.7.11)
- ・RoHS 指令物質追加検討_Pack15 パブコメ (2019.11.1)
- ・RoHS 指令適用除外 附属書36(b)-II 延長申請書 提出前確認「機械加工用途のアルミニウムに合金元素として含まれる0.4wt%までの鉛」(2019.11.1)
- ・RoHS General Review 意見書 (2019.11.1)
- ・RoHS 附属書III延長申請 1st バッチエンドース依頼 (7c-I,7c-II,13a,13b,13b-I,13b-II,13b-III.) (2019.12.13)
- ・RoHS 附属書III延長申請 2nd バッチエンドース依頼 (4f, 6a/6a-I,6b/6b-I,6c,7a,8b/8b-I, 15/15a,34) (2020.1.10)

- ・ RoHS 指令適用除外 附属書 3 カテゴリ 8、産業用カテゴリ 9 早期申請に関する EU 委員会への確認文書案 (2019.12.19)
- ・ RoHS 附属書IV延長申請エンドース (1,1a, 1c, 3&39) (2020.1.20)
- ・ RoHS Pack15 追加制限候補(TBBPA、MCCPs、三酸化アンチモン)、評価レポート公開、パブコメ (12/5～2020/1/30) (2020.1.23)
- ・ RoHS General Review RoHS を REACH へ統合することはしないよう要望する意見書 (2020.2.28)
- ・ バングラデシュ版 WEEE/RoHS 案 WTO/TBT 通報への意見書 (2020.3.11)
- ・ インド化学品法案 意見提出案 (製品への SDS 添付) (2020.3.23)

③欧州調査 (中井副委員長 2019.5.30～6.8、後藤副委員長 2019.10.2～10.13)

- ・ RoHS 指令適用除外延長申請書提出のための案の確認、協業のための調整。
General Review に関する情報交換、収集、他

(3) 会員への環境規制・標準化関連の情報提供

環境規制、JIS 改正に関する以下のセミナーを開催。

- ①「JAIMA 環境規制関連セミナー 欧州 RoHS 対応の実際～みんなの疑問に実務経験者が答えます～」(2019.11.21 開催)
- ②流れ分析技術者セミナー～流れ分析の基礎から JIS K0126,K0170 改正対応まで～
(2019.7.26、一般社団法人日本環境測定分析協会主催への JAIMA 協力)
- ③"JIS K 0126 流れ分析通則" 改正記念フォーラム”今さら聞けない、今から始める流れ分析”
(2019.9.6、JASIS コンファレンスにて開催)
- ④JAIMA 環境規制関連セミナー「最新の欧州化学物質規制」(2019.11.12 島津製作所本社にて開催) ※JAIMA 環境規制関連セミナーを関西で初めて実施。
- ⑤JAIMA 環境規制関連セミナー「電子機器の化学物質規制と含有分析～RoHS 分析効率化の取組～」(2020.2.7 島津製作所本社にて開催)
- ⑥環境セミナー 2019 「一医療・計測・分析・制御機器における環境関連法規制の最新動向一」
(医療・計測・分析・制御機器関連工業会連絡会 主催 2020.2.21 開催)

(4) 見学会の実施

国立天文台 三鷹キャンパス見学会実施 (2019.4.18)

京都電子工業株式会社様 (2020.1.23)

(5) 会員への環境分野に関する情報提供

- ①廃棄物規制・化学物質規制 (RoHS・REACH・GHS・電池関連)・省エネ規制 (エコデザイン) 関連情報の提供
- ②標準化の進捗動向情報の提供
- ③RoHS 指令等環境規制対応 FAQ 集作成

4. 労務委員会

労働法制の改正、働き方改革など工業会会員が共通に直面する人事・労務の課題に対応することを目的として、(1)主要労働条件に関する調査・研究、(2)会員企業等の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）の開催、(3)トピックス的信息交換、(4)異業種交流会を実施した。

(1) 主要労働条件に関する調査・研究

人事・賃金制度、労働時間制度、退職金・年金制度等主要労働条件に関する調査・情報交換・事例研究を実施した。

①春闘各社結果について情報交換を行った。(2019.5.31、第1回労務委員会)

②文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐 星幹崇 様をお招きし、文科省実務型インターンシップについて意見交換を行った。(2020.1.31、第5回労務委員会)

(2) 会員企業の労務・人事担当者に対する講演会（セミナー）開催

JAIMA 会員の労務・人事担当者を対象に講演会（セミナー）を実施、参加者は 28 名であった。
(2020.1.31、第5回労務委員会)

講演Ⅰ：「健康経営の推進について」

講師：経済産業省 商務・サービスグループヘルスケア産業課 係長 紺野春菜氏

講演Ⅱ：「健康経営への取り組み事例紹介」

講師：株式会社堀場製作所 総務部 副部長 富島真二氏

(3) トピックス的信息交換実施

人事・労務管理上での日常的・緊急的課題に関し、随時、メール等で労務委員会委員間の情報交換、意見交換を行なった。

①通勤費について (2019年5月31日 第1回労務委員会)

②労働組合による社内LANの利用について (2019年7～8月にメールで情報交換)

③東京オリンピック期間中の出勤対応等について (2019年9月4日 第3回労務委員会)

④人事給与就業システムについて (2020年1月にメールで情報交換)

⑤コロナウイルス対応について (2020年1月～2月にメールで情報交換)

(4) 異業種交流会

労務委員会参加会員以外の企業における働き方改革の状況について、以下の企業を訪問し情報交換を行った。

①味の素株式会社を訪問し、同社での働き方改革の進め方について説明を受け、意見交換を実施。
(2019.7.24、第2回労務委員会)

②浜松ホトニクス株式会社電子管事業部豊岡製作所を訪問し、ショールーム・工場見学を実施し、技術伝承等について意見交換を実施。(2019.11.29、第4回労務委員会)

5. 知的財産委員会

分析機器に関する知的財産権の管理推進を目的とする会員企業への情報提供、会員企業間での情報交換を推進。

(1) 分析機器に関する知的財産権関連情報交換

①知的財産委員会（本委員会）を開催し、会員企業間の有用な知財関連情報の交換を実施。

- 1) 第1回知財委員会：年間の活動計画を策定
- 2) 第2回知財委員会：井上委員長による講演会 「シスメックスの知財活動」（以下、再掲）
- 3) 第3回知財委員会：特許庁審査官(特許、意匠、商標)との意見交換会（以下、再掲）
- 4) 第4回知財委員会：異業種交流として日産自動車訪問（以下、再掲）
- 5) 第5回知財委員会：異業種交流としてブリヂストン訪問（以下、再掲）
- 6) 第6回知財委員会：小委員会活動報告及び来年度の活動計画検討

②知的財産権に関連する実務を推考する上で有用な知識及び情報の共有化を図り、併せて会員企業の若手実務者のスキルアップを図るため、実務小委員会を開催。

・研究テーマ（全10回）

「知財価値・品質を高めるプロセス・仕組み」の研究

・目的：知財活動成果の価値・品質を高めるレバレッジの利くプロセスに、より多くのリソースを振り向けられる仕組みを作る。

・開催実績：

- 1) 第1回小委員会：年間の活動計画を策定
- 2) 第2回小委員会：知財部門に期待される役割について検討
- 3) 第3回小委員会：知財活動成果の価値と品質に関して検討
- 4) 第4回小委員会：問題意識と課題の仮説、現状分析
- 5) 第5回小委員会：良い知財戦略を生むプロセスについて検討
- 6) 第6回小委員会：事業で勝つことと知財部門の関係性について検討
- 7) 第7回小委員会：侵害調査の各社現行運用の共有、改善方法について検討
- 8) 第8回小委員会：事業開発における知財観点で調査・報告すべき事項について検討
- 9) 第9回小委員会：知財情報管理 DB、書類の電子化、業務の標準化等について意見交換
- 10) 第10回小委員会：知財活動を測る指標について意見交換
- 11) 第11回小委員会：活動報告のまとめ

③異業種交流会1（2019.9.20 第4回知的財産委員会）

訪問先：日産自動車 追浜工場 ショールーム及び生産ライン見学

内 容：日産自動車の開発戦略及びそれに伴う知財（特許、デザイン、ブランド）戦略、模倣対策、自動運転等の自動車市場における最近の課題等について紹介を受けるとともに意見交換を実施。

④異業種交流会 2 (2020.2.14 第 5 回知的財産委員会)

訪問先：ブリヂストン 久留米工場 ショールーム及び生産ライン見学

内 容：ブリヂストンの歴史、知財管理、IoT/AI/ビッグデータへの取り組みのご紹介をいただき、その後、意見交換を実施。

(2) 知的財産権に係る行政機関（特許庁）との交流・情報交換

特許庁審査官等を招き、行政と会員企業間の交流・情報交換を実施。本年度は特許庁側 13 名（特許、意匠、商標：主に審査官）、委員会側 17 名が参加。(2019.9.12、第 3 回知的財産委員会)

(3) 知的財産権講演会開催

シスメックス（株）グローバルコミュニケーションセンタ(GCC)にて、井上委員長から、「知財活動の目的、シスメックスの目指す知財活動等」について、具体的な活動事例を交えて講演。

(2019.5.17、第 2 回知的財産委員会)

6. 国際委員会

分析機器産業のグローバル化と JASIS の国際化を推進することを目的として、海外団体との連携強化、海外との情報の受発信充実、海外へのソリューション提供の強化、輸出管理・海外市場に関する情報収集と啓発活動を実施した。

(1) 海外友好協力団体との連携強化

①欧米友好協力団体との交流：

2020年3月Pittcon、同4月ドイツanalyticaで欧米友好団体とのミーティングを計画したが、Pittconでは先方幹部のスケジュールが合わず中止となり、また、analyticaが新型コロナウイルス感染症の影響で10月に延期となったため、今年度は中止又は延期となった。

②アジア友好協力団体：

・アジア各国分析関連団体との協力によるフォーラム開催：

国内：JASIS 2019：アジアテクニカルフォーラム（アジアの食の安全・安心・特別講演インド分析市場動向）、中国フォーラム（市場動向、環境、食の安全、健康）開催

海外：インドanalytica Anacon India Anacon・JAIMA Technology Showcase(4月)開催

中国 BCEIA での中日科技発展フォーラム 10月開催

タイ TISTR との共同シンポジウム（ハーブ・化粧品分析）11月開催

③中本会長と海外諸団体との意見交換：

JASISにてインドIAIA、タイTISTR派遣団幹部とJAIMA中本会長との意見交換を実施。

(2) JAIMA の海外向け情報発信と国際的なプレゼンス向上

①海外展示会での Japan パビリオン出展

・インドanalytica Anacon India 2019年4月（ムンバイ）にて出展。9月（ハイデラバード）は、JAIMA 会員に募集したが応募なく出展は取り止め

・ドバイ Arab Lab への出展計画は 2020 年 9 月に延期

②Webによる発信

- ・中国分析機器ポータルサイト儀器信息网と連携し、JASIS 出展企業 8 社のインタビュー動画を中国向けに Webcasting (<https://www.instrument.com.cn/zt/JASIS 2019>)
- ・シンガポール セパレーションサイエンスブログサイトでの JASIS 2019 の PR を実施。

③在日大使館との連携:

- ・米国、ニュージーランド、チェコ在日大使館を訪問し JASIS/JASIS WebExpo PR と協力要請。
- ④米国 IBO 誌による日米欧 3 団体 Current Business Environment 調査に協力し、IBO Nov 15, 2018 号に取材記事が掲載。

(3) JASIS のグローバル化とアジアのハブ展化

- ①アジア各国からの JASIS 集客増目指し、中国、台湾、ベトナム、タイ、インドの分析機器関連友好協力団体を訪問し勧誘活動を実施。

※JASIS 2019 海外出展団体・企業：29 社・機関 31 小間、海外来場者 519 名

- ②MOU 団体向け海外企業勧誘プログラムを用いた出展、来場勧誘、PR 活動の実施。

本年 9 月以降 JASIS 2020 に向け、タイ、インド（9 月）中国、マレーシア（10 月）、タイ（11 月）、ピッツ展、中国、UAE、中国（3 月）への勧誘活動を実施。

③ JASIS WebExpo の海外への紹介動画作成

海外企業の日本市場開拓のツールとして JASIS WebExpo を動画で紹介。海外展示会、海外団体訪問時、JASIS 海外出展社説明会などで利用する。

(4) 輸出管理に関する情報収集と啓蒙活動（輸出管理小委員会）

小委員会を開催し情報交換・情報収集を実施。

- ①4 月 20 日、7 月 20 日開催 法令改正に対するパブリックコメント対応、標準試料（水銀、難燃剤、アスベスト等）の非該当化の経済産業省への要望事項取りまとめ対応。
- ②経済産業省と協力し、日本電気計測器工業会と共催で安全保障貿易管理説明会を東京で 2020 年 1 月に実施。新型コロナウイルス感染症の影響で、京都開催（2020 年 3 月予定）は中止。

(5) 海外市場における分析機器市場調査

海外展示会出展時に現地情報収集するほか現地 JETRO 事務所を訪問（インド、南ア）し、経済動向など調査し、国際委員会で報告し情報共有。

また、海外市場調査の一環で、中国、インドから専門家を JASIS 2019 国際コンファレンスに招へいし、中国分析機器市場動向、インド分析機器市場動向の講演を実施し、好評を得た。

7. 医療機器委員会

(1) 医療機器関連他団体との連携

- ①一般社団法人日本医療機器産業連合会（医機連）各種委員会および関連 WG 活動に参画。
医機連の各種委員会および関連 WG 活動に参画し、会員会社に情報・資料を配布した（5回）。
また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告。
- ②一般社団法人日本臨床検査薬協会（臨薬協）との IVD-MD 会議開催等の活動を実施。
 - ・臨薬協と IVD-MD 会議を開催(5回)し、情報の共有と共通課題について議論を行った。
また IVD 地位向上 WG を開催(2回)し、施策を審議。
 - ・臨薬協と共催でメディア勉強会を 2020 年 2 月に企画、新型コロナウイルスの影響で延期。
 - ・技術委員会が実施した JAIMA サマーサイエンススクール（2019 年 8.7 開催）への臨薬協の参画を支援。
 - ・子供霞ヶ関見学デー（厚生労働省開催）に協力。（2 日間で 466 名の参加者）
- ③ 団体動物関連委員会合同会議開催等の活動を実施
臨薬協および一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）との 3 団体動物関連委員会合同会議を開催(6回)し連携強化を図った。動物用体外診断用医薬品の届出制度等における課題について農林水産省との意見交換を継続して実施し、検討課題をまとめ、3 団体合同委員会 WG の連名で要望書を提出し、クラスダウンを実現した。これを受けて機器クラスダウン説明会を開催（2019.9.20）
 - ・臨薬協および JIRA との 3 団体共催による 2019 年度動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器法講習会を開催。参加者約 270 名。（2019.11.7）

(2) 臨床検査の標準化

- ①装置コード表作成
 - ・公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会等が実施する全国レベルの外部精度管理調査事業を支援する目的で装置コード表を改訂し、工業会 HP に掲載。
 - ・装置コード表作成の省力化、迅速かつ正確なデータ提供を行うため、装置コード表を会員企業が直接メンテナンス（装置追加・削除・修正）出来るシステム開発を一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会（JACLaS）と共同推進し、2019 年 12 月から運用開始。
 - ・装置コード表の作成システムの使用方法の説明会を東京（2019.11.8 開催）と大阪（2019.11.15）で開催し、58 社の運用協力を得た。
- ②国内標準化活動
体外診断機器の分野での国際整合（JIS 化）に貢献するため、海外規格に関する国際会議への参加等による最新の情報入手及び会員への情報提供を行った。
 - ・国際会議(2019.4.2、2020.1.17)に委員 1 名を派遣し、IEC61326-2-6 の審議に参加し、日本意見を提出。
 - ・安全・EMC 規格小委員会を開催（5回）

(3) 国際活動

- ①国際小委員会を開催し、国際政策・アジア WG 等の情報を提供した（5回）。
- ②ISO/TC212(臨床検査と体外診断検査システム)の国際会議(2019.11.5～8)に委員 1 名を派遣し、国内意見の国際規格への反映を図るとともに、ISO の開発や改訂について ISO/FDIS 20916、ISO18113、ISO17593 の最新情報を会員に提供(3回)
- ③GDA の枠組みで AdvaMedDx（米国）から提供された WHO 関連の情報を会員企業に展開、EDMA/AdvaMedDx/CBDL/MEDEC/IVD Australia が参加する GDA 会議(2019.5.13 パリ開催、2019.9.23 ボストン開催)に参加し、JAIMA の活動を報告
- ④中日医療器械監管交流会開催(2019.12.10)に協賛し、発表資料を会員企業に展開

(4) ライフサイエンス・イノベーションへの取組み

ライフサイエンス イノベーションセミナーを JASIS プロジェクト小委員会、LS 市場研究会と共催連携して実施した。

- ・「データサイエンスにより加速される医療・福祉・ライフサイエンスの未来」

(2020.2.6 開催、聴講者 75 名)

(5) 公正取引の徹底

- ①JACLAS EXPO 2019 にてブースを設営し、公正取引の周知活動を行った。
- ②「公正競争規約勉強会」を、東京会場（2020.2.4）で開催。
- ③医療機器業公正競争規約インストラクター養成研修を開催（2019.7.5、2019.12.6）し、新たに 80 名のインストラクターが誕生した。

8. 広報委員会

JAIMA の認知度／知名度向上および会員サービス向上を図ることを目的として、JAIMA の各委員会や事務局と連携し、(1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動、(2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」の発信、(3)「JAIMA Season」の定期発行、(4) JAIMA 情報の外部発信、(5)国内外メディア対応等を通じて、JAIMA や JASIS 情報の外部発信を実施した。

(1) JAIMA オフィシャルサイトによる広報活動実施。

- ①会員向けおよび対外向けにニュース・イベントなどのトピックスを毎月 10 数件ペースで継続掲載
- ②JAIMA が行うセミナー情報などを Web・メルマガを通じて会員向けに発信
- ③WEB 分析総覧のデザインをリニューアルし、携帯端末表示への対応を実施
- ④JASIS WebExpo ワーキンググループに 2 名メンバー派遣

(2) 会員向けメールマガジン「JAIMA 通信」発信

- ①2015 年 7 月 2 日創刊、月刊発行を継続中。(2019 年度末で通巻 57 号)
- ②法規制の動向、各種セミナー開催情報等や JAIMA の取組みを会員に継続的に情報提供。

(3) 「JAIMA Season」の定期刊行

- ①定期刊行（四半期1回）により、工業会の内外のステークホルダーに対して適切な情報を発信
- ②特別企画「機器分析の支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」を連載。

各分析機器が活躍する事例を紹介するコンテンツで、生活に近い分野や産業発展における分析機器の役割に関する解説記事。工業会内外の識者による執筆。

2020年は「JAIMA60周年特集」企画として執筆候補者を選定。

(4) JAIMA 情報の外部発信

- ①プレスリリース実績(当年度4月～3月)：プレスリリース件数13件（前年15件）、メディア掲載数547件（前年453件）、広告換算金額4,345K円（前年4,167K円）。メディア掲載数、広告換算金額は、過去最高の昨年度を上回る結果となった。

*メディア掲載数、広告換算金額はいずれも「@press（アットプレス）」調べ。

- ②リサーチ会社 米国 Instrument Business Outlook 誌(IBO)の米・欧・日 各工業会へのマーケットサーベイに協力した。IBOの研究結果を、JAIMA Web で結果公開。

- ③JASIS 委員会、JSIA/JAIMA 事務局と連携し、JASIS（幕張）にて記者会見を実施。

（記者会見参加メディア数：20社25名）（昨年21社26名）

- ④LSZ、OSFなどの特別企画や、JASIS WebExpoなどのJASISトピックスの発信タイミングを調整しながら、年間通じてメディア発信を実施。

(5) 国内外メディア対応

- ①海外メディア Instrument.com.cn(中国)、Separation Science(シンガポール)、LABePEDIA (インド) とのJASIS バータ広告を、Web・メルマガを中心に実施。

- ②BCEIA 派遣団へ参加。JASIS 及び JAIMA の対外的、国際的認知度向上に寄与。

(6) 『工業会案内』（和/英）の改訂発行

『工業会案内』（和文／英文）を改訂・発行した。

9. 展示会委員会

(1) 「JASIS 2019」〔9月4日（水）～6日（金）〕開催

- ①展示：

全体で478社1,423小間となり、500社を超える規模には至らなかった。ゲスト出展は24小間減となった。一方、会員の出展社は昨年同規模となった。

展示来場者数：23,409名（昨年23,697名）、出展小間数：1,423小間（同1,462小間）、

出展社数：478社（同494社）

- ②新技術説明会：新技術説明会は、規模としては昨年より減少傾向

テーマ数：329テーマ（昨年352）、聴講者数：延べ15,844人（同16,017名）

（＝48.2人／テーマ、昨年：45.5人／テーマ）

③ライフサイエンスイノベーションゾーン (LSZ) : 基調講演 : 25 テーマ、出展 : 63 社・86 小間、
企業プレゼン : 38 テーマ、来場者数 : 延べ 14,014 名 (昨年延 9,746 名)

④オープンソリューションフォーラム (OSF)

事前聴講登録者を絞ったため受講者は昨年を下回った。

聴講者 : 延べ 1,592 名 (昨年延べ 2,275 名)

【内訳】 9 月 4 日 パーソナルケア : 445 名

9 月 5 日 おいしさ評価 : 565 名

9 月 6 日 接合と表面処理 : 582 名

⑤JASIS コンファレンス :

4 日間の参加者が延 4,803 名で昨年実績を 584 名上回る結果となった。

セッション数 : 33 団体/53 セッション

延べ聴講者数 : 4,803 人

⑥来場者管理(新)システムの開発・移行

QR コードを活用した来場者システムを開発し、入場証発行の合理化、登録情報の管理強化等
を実施。

(2) 「JASIS WebExpo® 2019」〔7 月 3 日 (水) ~12 月 20 日 (金)] 開催

・7 月 3 日から事前告知・来場誘致を目的に JASIS 2018 のセミナー動画 29 タイトルと出展企業
ブース 13 社出展。

・JASIS WebExpo2019 は、最終的に出展社 19 社、来場者数 11,461 名。前回 2018 年の総来場者
数 4,814 名の 2 倍以上の状況で着実に事業を拡大。

(3) 「JASIS 2020」〔11 月 13 日 (水) ~15 日 (金)] 開催準備

JASIS 2020 の開催準備を 2019 年 1 1 月から開始。

10. 統計委員会

(1) 生産高、輸出高、輸入高統計データ

正会員および賛助会員を対象に四半期ごとの生産高、輸出高、輸入高統計データを調査し、
統計委員会で四半期ごとの調査結果を分析し各社にフィードバックするとともに、結果を理事会
に報告し、会報に掲載した。また、これまで開示していなかった輸出高の地域別表示方法を検討
し、入力会員企業向けに地域別データ閲覧が可能な統計システムに改修。

特定地域 (インド) の統計データ把握方法について検討着手。

(統計委員会開催日 : 2019.5.15、2019.8.23、2019.11.14、2020.2.28)

(2) 海外協力団体とのデータ交換及び配布

受注統計小委員会として、JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を推進している。

1) JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を維持管理した。35 社 (JAIMA 14 社、
ALDA 9 社、Eurom II 11 社) の参加を得ている。

2) 以下のとおり日米欧の企業の合同統計を四半期毎に集計した。

- ①主な集計項目：ア) 世界 6 地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額
イ) 世界 6 地域における対象機種を受注金額および台数
- ②地域：北米、欧州、日本、中国、インド、その他の 6 地域
- ③対象 11 機種：GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS
- ④参加企業：34 社（JAIMA 14 社、ALDA 9 社、Eurom II 11 社）

(3) 新統計システムの見直し

新統計システムの運用状況、不具合を把握・検討し、必要なシステム面・運用面の改良を行った。また、新たに輸出高の地域別データの出力を検討し、2018 年度内に改修を実施した。

1 1. JAIMA 設立 60 周年記念事業実行委員会

2020 年 8 月に JAIMA が設立 60 周年を迎えることから、2019 年 1 月 30 日に 60 周年記念事業準備委員会を企画戦略会議の下に設置し、60 周年記念事業の準備を開始。

その後、足立副会長が委員長となり、設立 60 周年記念事業実行委員会を組織し、準備作業を実施。

《企画戦略会議下に設置した準備委員会》

○2019 年 5 月 17 日 第 2 回 60 周年記念事業準備委員会・第 1 回記念行事準備小委員会

【主な議題】記念誌作成小委員会進捗報告、記念行事〔記念式典関連スケジュール、表彰（会員従業員表彰、外部感謝状）、特別講演会講演者候補等〕

《準備小委員会》

○2019 年 4 月 26 日 第 1 回記念誌準備小委員会

【主な議題】記念誌スケルトン及び執筆分担、工業会 10 年の軌跡トピックス選定、スケジュール

○2019 年 6 月 25 日 第 2 回記念誌準備小委員会

【主な議題】記念誌作成作業スケジュール改訂、記念誌構成案改訂、各委員会の執筆分担

《理事会の下に設置した実行委員会》

○2019 年 7 月 12 日 第 1 回 60 周年記念事業実行委員会

【主な議題】60 周年記念事業実行委員会設置、60 周年記念事業準備委員会及び小委員会活動報告

○2019 年 10 月 18 日 第 2 回 60 周年記念事業実行委員会兼第 1 回記念行事小委員会

【主な議題】小委員会進捗報告、座談会企画検討

○2020 年 1 月 16 日 第 3 回 60 周年記念事業実行委員会兼第 2 回記念行事小委員会

【主な議題】小委員会進捗報告、座談会企画検討、60 周年記念事業実施予算案検討

○2020 年 4 月 7 日 第 4 回 60 周年記念事業実行委員会兼第 3 回記念行事小委員会

【主な議題】新型コロナウイルス感染症拡大にともなう記念事業の取扱い、小委員会進捗状況

12. 委員会開催状況

委員会開催状況を別紙3、各委員会「正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙4に示す。

V. その他の事業活動概要（事務局等）

1. 生産高、輸出高、輸入高動向調査

会員を対象に統計調査を実施し、四半期毎と年度毎の集計結果の発表を行った。

2. 中小企業経営強化税制・固定資産税特例に関する証明書発行事業

政府の中小企業経営強化税制・固定資産税特例制度に協力し、分析機器に関する生産性向上仕様等証明書を審査、発行した。

3. その他行政諸施策および他団体事業への協力

- (1) 一般財団法人安全保障貿易情報センター（CISTEC）の出捐団体となっており、安全保障輸出管理委員会に専務理事が参加した。
- (2) 日本工業標準調査会（JISC）の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣している。
- (3) 別紙5のとおり、他団体のJIS等関係調査事業、ISO/IEC関係委員会、理事会等に協力した。
- (4) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、ホームページ掲載、会報掲載、メール送信により会員に周知した。

4. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施した。

5. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

- (1) 国際法定計量機関（OIML）関係委員会への協力
OIML国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加した。
- (2) 一般社団法人日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加した。

6. 分析機器に関する製品安全化事業

PL団体保険制度の事業を推進した。

- (1) 海外を対象とする「海外団体PL保険制度」の参加会員 7社
- (2) 国内を対象とする「国内団体PL保険制度」の参加会員 2社
- (3) CGL保険（企業総合賠償責任保険）の参加会員 15社

7. 協賛名義等の使用承認

2019年度は13件の展示会、セミナー等に対し、後援・協賛名義等の使用を承認した。

8. 報告書等発行

(1) 業務関係報告書

①JASIS 2019 結果報告書（和文）・②JASIS 2019 FINAL REPORT（英文）

(2) 分析機器の手引き

(3) 「医療機器業公正競争規約」携帯版小冊子（ポケット版）

(4) 「2019年度 動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器等法講習会」テキスト

別紙1 会員の異動

1. 入会 (4社)

(1) 正会員 (2社)

2019年5月1日 株式会社タクミナ

2019年11月1日 NISSHA エフアイエス株式会社

(2) 賛助会員 (2社)

2019年5月1日 岳石電気株式会社

2019年8月1日 ヘレウス株式会社

2. 退会 (8社)

(1) 正会員 (7社)

2019年5月31日 東京理化器械株式会社

2019年10月31日 野村化学株式会社

2019年12月31日 株式会社汀線科学研究所

2019年12月31日 株式会社トヤマ

2020年2月29日 日本エア・リキード合同会社

2020年3月31日 王子計測機器株式会社

2020年3月31日 東京貿易メディシス株式会社

(2) 賛助会員 (1社)

2020年3月31日 林純薬工業株式会社

3. 会社名等変更 (5社)

(1) 正会員 (2社)

2020年1月1日 日本エア・リキード合同会社

旧) 日本エア・リキード株式会社

2020年2月12日 株式会社日立ハイテク

旧) 株式会社日立ハイテクノロジーズ

(2) 賛助会員 (3社)

2019年7月1日 日立化成ダイアグノスティックス・システムズ株式会社

旧) 協和メデックス株式会社

2019年10月1日 グローバルライフサイエンステクノロジーズジャパン株式会社

旧) GEヘルスケア・ジャパン株式会社

2020年1月1日 アボットジャパン合同会社

旧) アボットジャパン株式会社

別紙 2 一般社団法人日本分析機器工業会 役員等名簿

2020年3月31日現在

会 長	中本 晃	株式会社島津製作所 代表取締役会長
副 会 長	足立 正之	株式会社堀場製作所 代表取締役社長
副 会 長	大井 泉	日本電子株式会社 代表取締役社長兼 COO
副 会 長	高木 幹夫	株式会社日立ハイテク 執行役常務
専務理事	松浦 義和	一般社団法人日本分析機器工業会
理 事	赤沢 真一	東亜ディーケーケー株式会社 常務取締役
理 事	石丸 元国	株式会社三菱ケミカルアナリテック 代表取締役社長
理 事	岸本 京子	京都電子工業株式会社 代表取締役社長
理 事	合田 豊治	アジレント・テクノロジー株式会社 代表取締役社長
理 事	志村 晶	株式会社リガク 代表取締役社長
理 事	中村 敏樹	日本分光株式会社 取締役会長
理 事	和田 直也	ベックマン・コールター株式会社 品質薬事統括部門長
監 事	加藤 英夫	特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会 事務局長
監 事	小谷野 純一	理研計器株式会社 取締役専務執行役員
監 事	長見 善博	ジーエルサイエンス株式会社 取締役社長
相 談 役	栗原権右衛門	日本電子株式会社 代表取締役会長兼 CEO
相 談 役	服部 重彦	株式会社島津製作所 相談役
相 談 役	堀場 厚	株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループ CEO

別紙3 委員会開催状況

1. 企画戦略会議	8回
展示会企画戦略小委員会	8回
ライフサイエンス市場研究会	12回
2. 技術委員会	11回
企画運営小委員会	11回
3. 環境委員会	12回
(他団体合同委員会：カテゴリ8・9関連工業会連絡会)	5回)
4. 労務委員会	4回
5. 知的財産委員会	6回
実務・調査小委員会	11回
6. 国際委員会	9回
輸出管理小委員会	4回
7. 医療機器委員会	5回
医療機器運営委員会	5回
薬機法小委員会	6回
標準・規格小委員会	6回
安全・EMC規格小委員会	5回
IVD-MD会議((一社)日本臨床検査薬協会との会合)	5回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	4回
医療機器国際小委員会	5回
動物医療機器小委員会	6回
8. 広報委員会	12回
会報編纂小委員会/ホームページ小委員会/プレスリリース小委員会	
合同拡大会議として	4回

9. 展示会委員会 (JASIS 委員会)	1 2 回
展示小委員会	1 2 回
展示広報小委員会	1 2 回
新技術説明会・OSF 小委員会	1 2 回
プロジェクト小委員会	1 2 回
来場促進小委員会	1 1 回
コンファレンス小委員会	3 回
JASIS Web Expo WG	7 回
10. 統計委員会	4 回
11. 標準化関係委員会	
JIS K0115 吸光高度分析通則原案作成委員会	3 回
JIS C61326-2-6 EMC 要求事項原案作成分科会	6 回
熱分解装置／加熱脱着装置及びガスクロマトグラフ (Py/TD-GC) を 使用したポリマー中フタル酸エステル類の一斉分析法に関する国際標準化 検討委員会	1 回
同技術小委員会	1 回
12. 設立 60 周年記念事業実行委員会	4 回

以上

別紙 4

2019 年度 常設委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏 名 (所 属)
・企画戦略会議 ・展示会企画戦略小委員会 ・ライフサイエンス市場研究会	正	山下泰生 (堀場製作所)
	副	大井 泉 (日本電子) ⇒横山敏治 (日本電子)
	〃	古賀正敏 (島津製作所)
	主査	大井 泉⇒古賀正敏、横山敏治
	主査	神田浩幸 (リガク)
	※ ※	古賀正敏 (※ファシリテーター) 野村 聡 (堀場製作所) (※ファシリテーター)
・技術委員会 ・企画運営小委員会 ・JASIS コンファレンス小委員会 ・グローバル交流小委員会 ・技術普及調査小委員会 ・ドキュメント整備小委員会	正	杉沢寿志 (日本電子)
	副	西埜 誠 (島津製作所) ⇒岡村嘉之 (島津製作所)
	〃	八谷宏光 (東亜ディーケーケー)
	主査	杉沢寿志
	〃	西埜 誠⇒岡村嘉之
	〃	濱上郁子 (堀場製作所) ⇒石隈徹 (堀場製作所)
	〃	川村幸嗣 (光明理化学工業)
・環境委員会 ・規格標準化小委員会 ・環境規制小委員会 ・国際規制小委員会	正	中川勝博 (島津製作所)
	副	中井章仁 (堀場製作所)、
	〃	後藤知行 (浜松ホトニクス)、
	〃	赤沼英雄 (ビーエルテック)
	主査	中川勝博
	〃	中井章仁
・労務委員会	正	田崎克也 (アジレント・テクノロジー)
	副	坂口 亨 (京都電子工業)
	〃	大澤 暁 (リガク)
・知的財産委員会 ・知的財産調査・実務小委員会	正	井上二三夫 (シスメックス)
	副	中野博司 (島津製作所)
	〃	坂谷忠夫 (リガク) ⇒樋口勝則 (日本電子)
	主査	南郷興平 (シスメックス)

<ul style="list-style-type: none"> ・国際委員会 ・輸出管理小委員会 	<p>正 副 〃 主査</p>	<p>川本健志（島津製作所） 遠藤政彦（アジレント・テクノロジー） 林 奨（堀場製作所） 原 圃 聡（島津製作所）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器委員会 ・薬事法小委員会 ・標準・規格小委員会 ・安全・EMC 小委員会 ・医療機器業公正取引協議会分析工支部 ・医療機器国際小委員会 ・動物医療機器小委員会 	<p>正 副 〃 主査 〃 〃 正 主査 〃</p>	<p>鈴木信雄（日立ハイテク） 川中士郎（日本電子） 鈴木一弘（島津製作所） 西村裕之（サクラファインテックジャパン） 中山秀喜（シスメックス） 田中一啓（日立ハイテク） 川中士郎 関口幸児（ロッシュ DC ジャパン） 船橋真人（富士フイルム）⇒原幸寛（リガク）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会 ・会誌編纂小委員会 ・ホームページ小委員会 ・プレスリリース小委員会 	<p>正 副 〃 〃 主査 〃 〃</p>	<p>真鍋伸一（島津製作所）⇒内匠優理香(リガク) 伊藤裕基（日立ハイテク） 内匠優理香(リガク)⇒野口美香（島津製作所） 菅野 剛（東亜ディーケーケー） 伊藤裕基 菅野 剛 内匠優理香⇒野口美香</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・展示会委員会 <p>(JASIS 委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示小委員会 ・展示広報小委員会 ・新技術説明会・OSF 小委員会 ・プロジェクト小委員会 ・コンファレンス小委員会 	<p>正 副 〃 〃 主査 〃 〃 〃 〃</p>	<p>長谷川武義（堀場製作所）⇒杉田隆道（島津製作所） 五十嵐真人（日立ハイテク） 金子静知（メルク） 杉田隆通（島津製作所）⇒長谷川武義（堀場製作所） 野元政男（日本電子）⇒青木正孝（株式会社リガク） 青木正孝 金子静知 長谷川武義 五十嵐真人 岡村嘉之</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・統計委員会 ・受注統計小委員会 	<p>正 主査</p>	<p>伊藤憲治（日立ハイテクサイエンス） 川本健志（島津製作所）</p>

別紙5 参加している他団体事業

1. 他団体の J I S 等関係調査事業への協力

- (1) 計測・計量分野における用語および信頼性評価に関する国際標準化 (一財) 日本規格協会
- (2) 環境測定 J I S 総括委員会 (一社) 産業環境管理協会
- (3) 環境関係 JIS 委員会 (一社) 日本環境測定分析協会
- (4) 用語関係 JIS 委員会 (公社) 日本分析化学会

2. 他団体の ISO/IEC 関係委員会への協力

- (1) ISO 関係委員会
 - ①TC45 (ゴムの化学試験方法) (一社)日本ゴム工業会
 - ②TC61 (プラスチック) 日本プラスチック工業連盟
 - ③TC147 (水質) (一社) 産業環境管理協会
 - ④TC146 (アスベスト測定) (一財) 建材試験センター
 - ⑤TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) (一社) 日本医療機器産業連合会
 - ⑥TC212 (臨床検査と体外診断検査システム) 日本臨床検査標準協議会
 - ⑦TC229 (ナノテクノロジー) (一財)日本規格協会
- (2) I E C 関係委員会
 - ①TC65/SC65A (工業用プロセスの測定と制御への EMC 要求) (一社) 日本電気計測器工業会
 - ②TC111 (RoHS 関連試験法の規格化) (一社) 電子情報技術産業協会

3. 他団体の理事会等への協力

- (1) (一財) 安全保障貿易情報センター (評議員会、部会、専門委員会)
- (2) (一社) 日本機械工業連合会 (理事会、参与会)
- (3) 国際計量研究連絡委員会 (OIML 国内委員会) (委員会)
- (4) (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会 (委員会)
- (5) (公社) 日本分析化学会 (理事会、委員会)
- (6) (特非) 日本臨床検査標準協議会 (理事会、委員会)
- (7) (一社) 日本医療機器産業連合会 (理事会、委員会)
- (8) (一財) 医療機器センター (評議員会)
- (9) (公社) 日本医師会 (精度管理委員会)
- (10) 医療機器業公正取引協議会 (理事会、委員会)
- (11) (一社) 日本臨床検査薬協会 (理事会、委員会)
- (12) 独立行政法人日本学術振興会 193 委員会 (委員会)